第4章 平和公園(西地区)の整備方針 ●Cゾーン 4-1. ゾーニングとゾーン別整備方針 平和を感じ新たなつながりを象徴するエントランス空間 ●Fゾーン ・平和発信機能の導入による平和を伝える場の形成 水辺と道路高架下を活用した多目的な空間 ・ゆとりある歩行空間と緑化(並木・花壇等)による象徴的な通り 水辺と連携した憩い空間の形成(Bゾーンとも連携) の形成 旧城山国民学校校舎 旧鎮西学院 ・高架下を活用した歩行者動線の確保 ・増加が見込まれる自動車交通に対応した交通処理機能の確保検討 ・浦上川の歴史(原爆・水害)を実感できる空間の形成 ・周辺ゾーンへのシームレスな空間の形成 活水中学校 ・官民連携による賑わいを創出する来園者への利便施設(飲食・情 活水高等学校 報発信機能等)の導入検討 ●Dゾーン 交流・賑わいを創出する空間 ●Bゾーン ・市民が身近に休憩や散歩、軽運動などを楽しめる空間の形成 道路高架下を活用した多目的な空間 ・イベントや災害時の避難場所にも対応できるオープンスペースの確保 ・多様なニーズに対応する多目的な空間として活用 ・Cゾーンとの連携を意識した、平和を実感できる空間の形成 (スポーツ、小広場、遊戯広場、駐車場、駐輪場 など) ・浦上川沿いの親水護岸を活かし、水辺と連携した 憩い空間の形成(Fゾーンとも連携) ←浦上川 ・高架道路を取り囲むような緑地帯の形成 長崎南北幹線道路 **Dゾーン** ●Hゾーン スポーツ環境を創出する空間 ・道路整備に支障となるスポーツ施設(弓 道場、庭球場)の再配置 JR長崎本線 ●Gゾーン 国道 206号 既存のスポーツ施設を活用する空間 電気軌道 ・道路整備に支障とならない施設は存置活用 ●Ⅰゾーン ●Aゾーン 東地区と西地区とをつなぐゲート空間 既存の大規模スポーツ施設等を活用する空間 原爆落下 ●J ゾーン ・既存の大規模スポーツ施設、ペデストリアン ・東西地区をつなぐ安全な歩行者動線の形成 中心地 鉄道高架下を活用した多機能な空間 ・増加が見込まれる自動車交通に対応した交通処 デッキ、地下駐車場の存置活用 ・公園維持管理のバックヤードや災害時の備蓄倉庫など、多 理機能確保の検討 機能な空間として活用 ※公園内の余剰空間で機能を確保できる場合は公園内を優先 ●各ゾーンにおける基本方針の対応表 В С G Н D F J Α 多様なニーズに応じた、平和を実感するスポーツ環境の創出 0 ●E ゾーン 周辺機能と調和したスポーツ環境を創出する空間 2 市民に身近で、平和の尊さを感じられる空間の形成 \bigcirc 0 \bigcirc \bigcirc ・道路整備に支障となるスポーツ施設(市民総合プール)の再配置 3 長崎の新たな玄関口としての機能強化 0 ・稲佐山への眺望に配慮した施設整備 ・緑化や景観的な配慮による圧迫感の軽減 4 平和を伝える機能向上の動線形成 \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \circ \bigcirc ・市民の散歩やジョギングの空間形成と安全・安心の確保 効率的で効果的な施設整備と管理運営 \bigcirc \bigcirc 0 \bigcirc \bigcirc \bigcirc \circ

5

200m

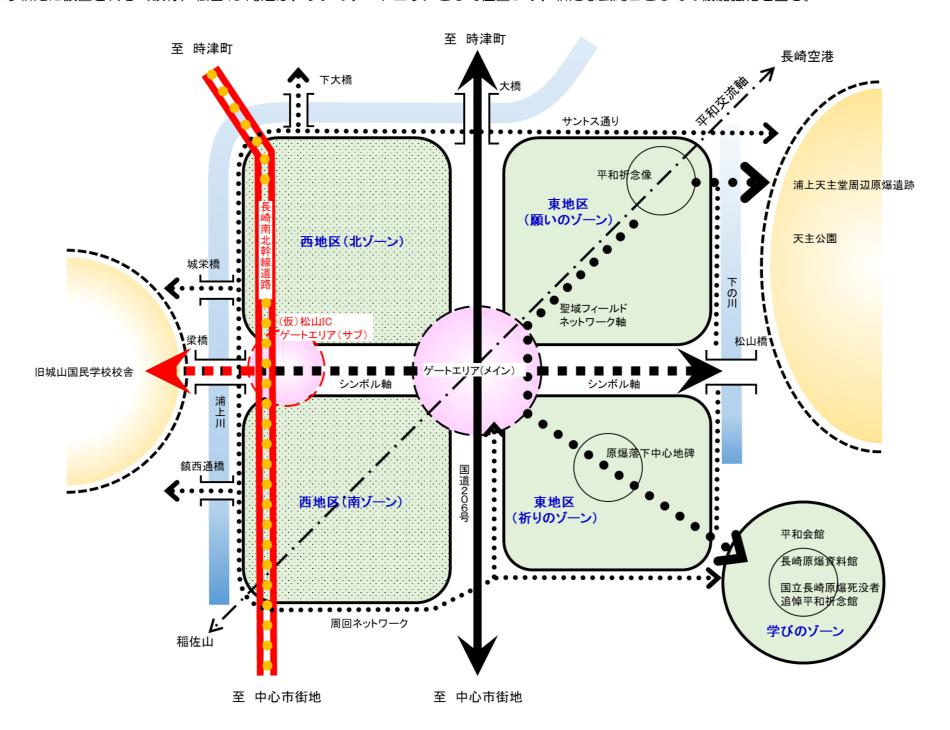
0 20 50

100

4-2. 動線計画

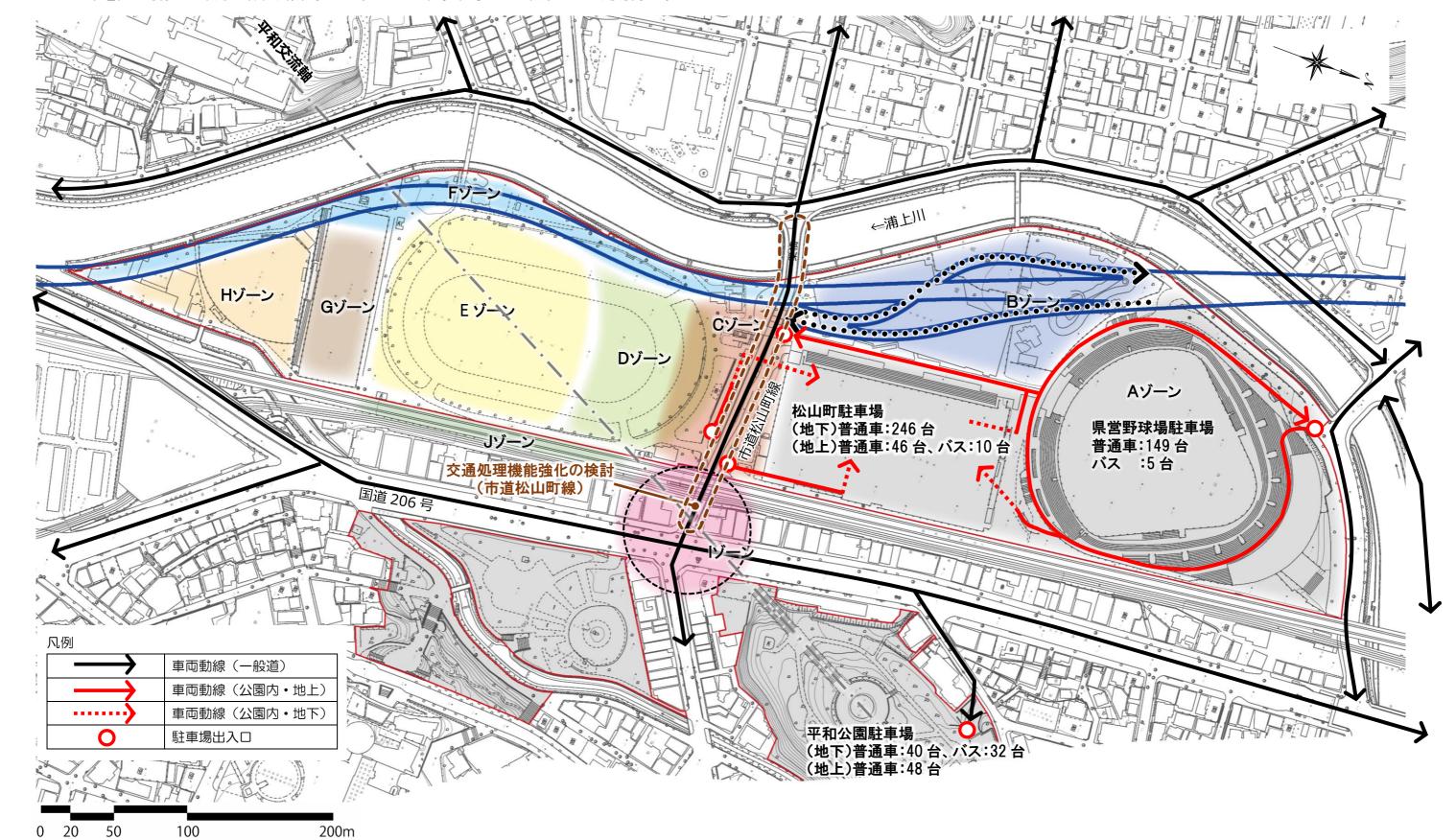
現行計画に示されている平和公園全体のネットワークの考え方を踏まえて、車両動線と歩行者動線を定めた。

- (1) 平和公園全体のネットワークの考え方
 - 計画にあたっては、平和公園の東西地区をつなぐ市道松山町線をシンボル軸として形成し、それぞれの地区の南北で、東地区(願いのゾーン、祈りのゾーン、学びのゾーン)と西地区(北ゾーン、南ゾーン) に分割した。シンボル軸については、平和公園の東西地区だけでなく、周辺の旧城山国民学校校舎とのつながりも位置付け、平和学習の一端を担う施設とのネットワークを形成する。
 - 平和公園の各ゾーンの中心となる部分を「ゲートエリア(メイン)」、東西地区を結ぶ市道を「シンボル軸」、各ゾーンや周辺の平和関連施設との動線を歩行者の「周回ネットワーク」として位置づける。
 - 長崎南北幹線道路の整備により新たに設置される(仮称)松山IC周辺は、サブのゲートエリアとして位置づけ、新たな玄関口としての機能強化を図る。



(2) 車両動線計画

- 市道松山町線については、(仮) 松山 IC の接続により交通量増加が見込まれることから、シンボル軸としての象徴性と整合を図りながら交通処理機能の確保について検討する。
- 長崎南北幹線道路から公園を訪れる車両は、既存の市営松山町駐車場(地下)や県営野球場駐車場(地上)、市営平和公園駐車場を活用し、新たな玄関口である(仮)松山ICからサイン等により誘導する。
- 市道松山町線への車両の集中を緩和するにあたっては、駐車場からの車両の出口を検討する。



(3) 歩行者動線計画

- 西地区全体を安全・安心に移動できる歩行者動線ネットワークの形成にあたっては、電車・バスの公共交通機関や市営松山町駐車場からの連続性を踏まえ、目的別に歩行者動線を分け、それを機能させるサイン 等を整備する。
- Cゾーンには、西地区における歴史を伝える場をつくり、浦上川(水辺空間)、東地区、旧城山国民学校校舎につなげる動線をサイン等により形成する。
- Cゾーン(市道松山町線)は、ゆとりある歩行空間や周辺ゾーンへのシームレスな動線を確保する。
- 浦上川左岸には、憩い、地区の歴史を知るための水辺休憩広場を確保し、浦上川と稲佐山を望む眺望点とする。

